

令和5年度 第1回・岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

1 日時

令和5年5月10日（水）14:00～15:50

2 場所

岡山県庁2階第2会議室（岡山市北区内山下2-4-6）

3 出席委員

萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員

4 議事

- (1) 公立大学法人岡山県立大学 令和5年度 年度計画
- (2) " 役員報酬規程の一部改正について

5 内容

公立大学法人岡山県立大学から説明後、質疑応答

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
[資料4] 予算、収支計画及び資金計画について、当初予算、最終予算のいずれか。	当初予算である。
[資料4] 収支計画について、令和4年度計画の目的積立金取崩額1億2,900万円は、純利益のマイナス1億2,900万円を補填するために取り崩したのか。予算計画の4年度計画の目的積立金取崩収入に対応していると考えて良いのか。	そのとおり。
[資料4] 予算計画の5年度計画では、目的積立金取崩収入が2億3,700万円になっているが、収支計画の5年度計画では、目的積立金取崩額が0になっているのはなぜか。	令和4年8月に地方独立行政法人会計基準が改正され、5年度から資産見返負債による会計処理が廃止されたが、4年度末の資産見返負債残高を5年度期首に全額収益化し、臨時利益として計上することとされた。5年度には経常収益を赤字と見込んでいるが、臨時利益と相殺したため、目的積立金取崩額が0になっている。この処理に当たっては監査法人からも助言をいただいた。
今回の資料の詳細については、7月3日開催予定の第2回目の評価委員会の際に、意見があれば申し上げてもいいのか。	意見があれば出していただいても構わない。
[資料1] 2ページの情報工学部のスチュ	SAの導入について、他の大学に比べて県

<p>ーデント・アシスタント制度（SA）について、以前から学生の主体的な活動を土台にした制度を作りたいと言われていたと思うが、そのことか。</p>	<p>立大学は遅れていたもので、この制度を早く確立したいと考えていた。学生支援に関係するセンター長等と話した結果、すぐに開始することにはまだ問題があるので待つてほしいという要望が多く開始が遅れていた。ようやく令和5年4月から制度を開始する合意が得られたため、この会議資料に記載している。情報工学部のみに記載しているが、全学的に実施したいと考えている。学生募集や運用方法については5月中に固めたい。慣れていないことなので、慎重に進めていきたい。</p>
<p>[資料1] 2ページのデザイン学部のルーブリック評価の導入について、新しく導入するものだと思うが、これは学生に対してシラバスで公表するのか。</p>	<p>デザイン学部で新たに導入されたものではない。新しく就任した学部長が評価制度を見直したいと考えているため、資料に記載している。GPAやルーブリック評価等は全学的な委員会である大学運営委員会で検討していくことになる。</p>
<p>[資料3]について、管理栄養士の国家試験の合格率が下がっているのはなぜか。</p>	<p>補講や国家試験対策は毎年行っているが、合格率が下がった。全国の大学の平均合格率について、令和3年度では65.1%、4年度はそれより約10%下がった。かなり問題が難しかったようで、問題の難易度によって合格率は前後してしまう。5年度は下がることのないよう対策を強化していきたいと考えている。</p>
<p>県内就職率はコントロールできないのか。県内就職率を上げるための分析はできているのか。</p>	<p>県内入学者が多い学生が就職する年度は県内就職率が高くなる。県外入学者の県内就職率も低くはない。県内就職率の目標値は55%だが、50%で良いと考えている。岡山県に就職させることに固執する必要はないのではないかと考えているが、設置団体である県が県内就職率を上げることを希望しているので、我々も努力している。企業や自治体に受け入れをしていただいているが、学生たちに響いているかどうか問題だと思う。県内企業の情報が学生に必ずしも上手く届いていなかったということに気づいたので、学生に情報を流し</p>

	<p>て、県内にも素晴らしい企業があるということを知ってもらえるよう努めている。また、学生がその情報をどう自分のものとして考えるかだが、そこは企業と一緒に考えていかないと、学生に響かせるのは難しいと思っている。</p> <p>さらに、卒業して県外へ行った学生が県内に戻って来るときの受け皿を作っておくことも重要だと思っているが、まだ整備ができていない。</p>
<p>明らかに新卒の方の離職率が上がっている。仕事のやりがいを見つけたがるような傾向がある。県としては、県内就職率が高い方がいいのか。</p>	<p>県内企業の情報が入らないと、自分の少ない知識の中で就職先が決まってしまう。県内企業の情報がないから、東京や大阪など都市部の方に目が行ってしまう。県立大学の取組はすぐには効果が表れてこないと思うが、地道に続けていくことで、県内企業の情報を学生に分かってもらわないと、県内に就職してもらうことは難しい。</p> <p>大学院の卒業生は県外に就職する傾向があり、ほとんどが都会に出ていく。その点をどのようにサポートするかもこれからの課題だと思っている。</p>
<p>県立大学はデザインという一つのカテゴリーのイメージが強い。そういう仕事は、就職先が全国的なものになってしまいがちだ。</p>	<p>情報系については、東京より関西方面に就職を希望する学生が多い。研究、開発に携わる仕事があるかどうかということで、大学院生は就職先について判断するので、大都市圏の大きな会社の方が魅力的に感じるということはあると思う。</p> <p>保健福祉学部で県内就職率を上げてもらわないと、全体の県内就職率も低くなる。</p>
<p>[資料3]のインターンシップについて、令和3年度の58人から4年度の42人に減少したのは、コロナの影響か。</p>	<p>コロナの感染拡大の影響もあると考えている。今年度は、まだ履修登録の段階で確定数は分からないが、昨年度に比べると登録者数は増えている。</p> <p>国はこのたびインターンシップの定義を変えて、短期間でも就活に関係するものをインターンシップとしたので、授業名をキャリアデザイン演習に変えている。</p> <p>対象学年を3年生から2年生に変えて、就</p>

	<p>業体験の色が強い内容に変えたため、文部科学省から名称にインターンシップと付けないようにという指導があり、キャリアデザイン演習に変えている。</p> <p>長期インターンシップには、エンジニアリング演習と地域インターンシップの2科目があり、地域インターンシップをキャリアデザイン演習に名称を変えた。エンジニアリング演習は、特に情報工学部関係の企業にインターンシップに行くもので、従来どおり3年生が対象となる。</p>
<p>[資料3]のTOEICの伸び幅について、実績の数値は前年度と比べた伸び幅ということか。</p>	<p>1年次に受けたときの点数と2年次に受けたときの点数の差がどれくらいだったかという数値を実績として記載している。令和元年度に、1年次の点数よりも2年次の点数がものすごく悪かった。原因を分析した結果、学生のTOEICに対するモチベーションが低かった。ただ、一つの基準としてTOEICの点数は必要になってくるので、学生にもトライしてもらう必要がある。先生と学生でどうすれば良いかと考えた結果、学生たちのモチベーションが上がり、点数も大きく上がった。4年度は、初年度の成績が良かったため、逆に伸び幅が前年度よりも下がっている。一つ大きなことは、TOEICで最低何点取れば単位を認めるかを検討して、英語の単位にTOEICを入れたこと。ただ、単位を認める最低点が、他大学と比べて低いため、我々としてはもう少し上げたいが、そうすると単位をもらえない学生が増えるため、最低点の調整をしている状況である。</p> <p>平成28年入学の学生のときの伸び幅が0.4点だった。そのデータを基に目標値を設定したので、目標値が低い数字になっている。</p>
<p>5年度の目標も変わらずに4.0なのか。</p>	<p>5年度も4.0を目標にする。</p>
<p>4年度計画では、アドバンスクラスやイーラーニングについて、オリジナル教材とい</p>	<p>平均点は徐々に上がってきている。</p>

<p>うのが書かれていたと思うが、効果があったのか。</p>	
<p>大学院の研究成果に関する指標はあるのか。</p>	<p>修士論文の審査基準は設けているので、そこは最低限クリアしないとイケない。大学院のディプロマポリシーのようなものを中に入れ込んでおくと、学習成果を確保しやすい。</p>
<p>入試の倍率について、看護学科が今年度は厳しかったようだが、これについて募集人員の配分は変えないのか。</p>	<p>様々なニーズ調査をしながら、毎年慎重に検討している。</p>
<p>国際交流について、実際に海外への留学や海外からの受け入れは回復してきたのか。</p>	<p>昨年度までは留学も受け入れもほぼできない状況だったが、今年度は海外に出ていくという動きがあり、すでに留学支援の「トビタテ事業」に3名申請している。</p>
<p>学内ネットワークシステム更新の進捗状況はどうか。</p>	<p>学内のWi-Fi環境は、昨年度、整備が完了した。</p>
<p>[資料4]について、一般管理費が1億5,000万円ほど増加しているのは光熱費の高騰によるものと考えて良いのか。</p>	<p>光熱費の高騰が大きい。</p>
<p>県内企業への就職率について、数字を出さざるを得ないが、大学院まで出て、岡山県内に留めておくことにどれだけ意味があるのかというジレンマだと思う。</p>	<p>公立大学の在り方について、しっかりと考え、国立大学とは違う良さを教職員にも学生にも伝えていかないとイケない。社会貢献が公立大学のミッションとして言われているが、国立大学もグローバルだけではなく、地域を向いてきている。そうすると、公立大学の良さとは、という原点に戻らないとイケない。</p> <p>私見だが、県立大学の3学部は非常にユニークな学部が揃っており、岡山県に対して専門的な分野で社会貢献ができる学部だと思っている。ただ、どういう形で還元させていくかということは、まだ我々として十分に論じられていない。また、10年先、20年先を見据えて、県立大学の未来像をどこまで描けるかが重要になってくる。</p> <p>小規模な大学だからこそ、スキルだけではなく、人間力を身につけた人材を育てることができると思う。そういう資質を身に付けさせるのが我々の務めであり、選ばれる</p>

	<p>公立大学になるよう切磋琢磨しないといけないと思っている。</p>
<p>企業を経営して学んだことだが、「差」ではなく「違い」をいかに強みとして表現してやっていくかが重要である。岡山県立大学は、看護、デザイン、建築など特徴づけられるものがある。ますます強みに磨きをかけていただいて、特徴のある大学ということでやっていただきたい。また、企業側も就職説明会を県立大学で開催するなど、学生が県内に就職するよう双方に努力が必要である。県内就職率については、最低でも半分は県内で働いてくれたら良いのではないかと思うが、一方で県外へ羽ばたいてチャレンジしてほしいとも思う。</p>	<p>県立大学の「ブランド」とは何かということから悩んでいた。ようやく副専攻「吉備の杜」が定着してきて、学内の先生方、特にデザインの先生は、県立大学のブランドといえば「吉備の杜」だという気持ちが強くなってきている。「吉備の杜」をさらに伸ばしていき、そこでいろいろな違いが出るように発展させていこうと思っている。</p>
<p>「吉備の杜」の「売り」について、説明してほしい。</p>	<p>吉備の杜の一番の「売り」は、「“三方よし”の県大流PBL演習」。「三方」というのは、大学・学生・地元企業。皆に得るものがあるようにPBL演習を設定している。基本的には、企業や自治体からそれぞれの機関で課題になっていることについてのテーマを出していただくようお願いしているため、その課題が解決できれば企業側も得るものがある。大学の教員は、実践的なテーマの設定が比較的苦手であるが、学生は実践的なテーマを求めているので、大学側からしても非常にありがたい。学生にとっても、大学で理論的なことを学んで「吉備の杜」で実践的なことを学べるという点でメリットがある。</p> <p>授業の時期は、8月から12月頃までの期間で、受け入れ先の企業と学生とでスケジュールを相談して決めて、約10日間受け入れ先の企業に行くので、いわゆるインターンシップ的な要素も含んでいる。</p> <p>基本的には、学生に対して受け入れ先で社員を何人か付けていただいて、課題を一緒に解決していく形をとっている。一緒に取り組むことでお互いに成長していくこと</p>

を目指しているところが一番大きな特徴になる。

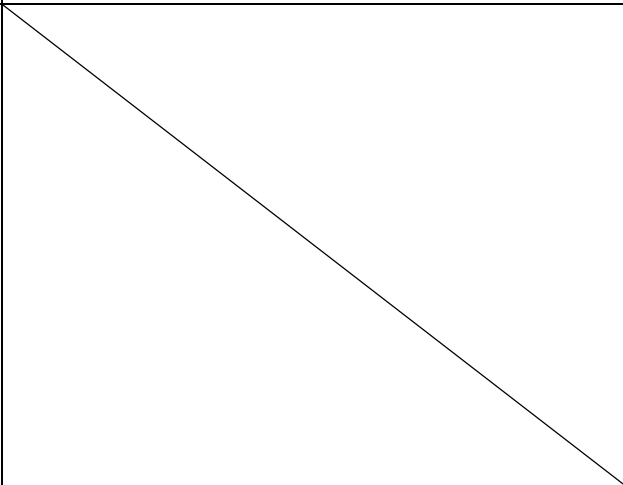
もう一つはプロデューサー課程で、大学院における教養教育のようなものになる。

リベラルアーツ的な講義を、今まで研究科では別々に授業を受けていたが、3研究科が一緒になって受けられるよう、かつ社会人に履修していただくリカレント教育として開始した。最初は6科目だったが13科目まで拡大させた。重要なのは、物事を考える力や想像力。「知の理論」で批判的に物事を捉えていく力を、グループディスカッションをしながら鍛えてもらう。また、「デザイン思考」ということで、単なるアートな世界だけではなく、設計やブランドデザインをするときの考え方を教えてもらえるような講義を新たに作った。あとは、プレス関係のアナウンサーや記者の方にも来ていただいて、現場でコミュニケーション力をつけるための具体的な話をさせていただく。すぐに自分に身について即戦力になれる、あるいは今後役に立つものを身につけてもらいたいと思って科目を設定していることが、もう一つの特徴になる。

一方、学生は自分の専門的な研究などに取り組む中で、「吉備の杜」を受講すると時間的に大変になる。先生方も、あまり副専攻に力を入れすぎると、専門的な分野の研究ができなくなるという心配もある。そのバランスをどう調整するか。教育システムそのものを、学生が受講しやすく、かつ質的にも向上するよう構築する必要があると考えている。

以前、文部科学省から助成を受けて、大学の1年生から3年生を対象にした副専攻「岡山創生学」を整備した。今回、この副専攻を統合した上で、「吉備の杜」で3年生から大学院生までを対象にした6年間

	一貫の副専攻という位置づけにしている。
「吉備の杜」は何年実施しているのか。	準備期間を含めると、5年度で4年目になる。
電気料金の高騰について、どのように対応しているのか。	<p>令和4年度の電気代について、2、3年度はコロナ禍のため比較対象にならないと思うが元年度と比較すると、使用量は93%、金額では156%になっている。県からの運営費交付金だけでは厳しかったが、4年度は県から電気代を補助していただいたので、何とか決算ができるかなという感じになっている。5年度もこのままの状況だと厳しい。授業料を上げるわけにもいかないので、県と相談しながら状況を見極めたいと思っている。</p> <p>ゼロエミッションや脱炭素社会を県大として考えるべきときではないかと思っている。皆さんと一緒にアイデアを考えながら、少しでも生物エネルギーにできるような形にもっていかないといけない。</p>
ChatGPTはすごい技術だと思う。大学によっては禁止するようなどころもあるが、活用すれば素晴らしいことができると思う。学生の中にはすでにやっている人もいると思うが、スタートラインを一緒にするためにも、「ChatGPTとは」という授業ではなくて、「ChatGPTの活用の仕方」に関する授業を一般教養科目に取り入れてほしい。	<p>県大もChatGPTにどう対応するか、学生用・教職員用にそれぞれ方針を出さないといけない。早く出さないといけないが、FD、SD等いろいろな方の話を伺いながら使用におけるメリット・デメリットの分析から入っていかないといけない。ご意見のように、教育の中で学生や先生方が学べるようにしていくことが必要になってくる。倫理観に関する問題も出てくるはずなので、それを認識してもらわなければいけない。どのあたりを禁じるかのボーダーラインがなかなか見えてこない。</p> <p>ChatGPTにはいろいろとメリットがあって、それを使うことで今までやってきた能力が必要なくなる部分がある。それを超えた部分の能力を、将来、大学が伸ばさないといけないと思っている。それは何かというところを模索しないといけないし、もう一つは倫理的に使っていかないと</p>

	<p>いけない。倫理的な使い方をどうするのかという教育や世間的な常識といったところが大事なのかなと思う。</p>
<p>就実大学は、シンプルな指針を出した。ChatGPTの使い方や内容はどんどん変化しているので、研修をしても追いつかない。基本的な方針を示して、あとは、教員がそれぞれの授業でChatGPTの利用について示して良いことにした。研修はできないが、評価の公平性と倫理的な問題には注意して、授業に関しては教員の指示に従うという本当にシンプルな指針を取り急ぎ策定した。</p>	
<p>COVID-19が終息していく中で、令和5年度に学生たちに何かメッセージを出しているのか。</p>	<p>具体的なことは考えていない。ただ、5月8日から5類に移行したということで、県の方針に合わせた我々の授業等での指針は発信している。コロナ前とは違う形でコロナから解放されていくので、教育環境をどうしていくかということ、我々で考え、発信していかなければならないと思っている。ただ、今まで閉鎖的であった人間関係や友達関係は、私が見る限り、ずいぶん良くなっているのではないかと考えているので、この辺を成長させるような形で発信しないといけないかなと思っている。</p>
<p>諸手をあげて解放されたわけではないので、ぜひ指針を示しつつ発信していただければ、学生たちのよりどころにもなると思う。</p>	<p>開学30周年記念式典には、在学生会は出席することとしている。同窓会の皆様にもご協力をいただき、同窓会の方々が登壇してお話をしてくださる。今まで、同窓会や先輩後輩の繋がりはそんなに強くなかったが、そこを改善して変わっていただきたいと考えている。</p> <p>学生アンケートで、コロナ禍で先輩と話ができなかったということを中心に聞いているので、そのあたりを元に戻したいと思っている。</p>
<p>部活やクラブ活動はあるのか。</p>	<p>他大学にあるサークルはだいたいある。これまでは新生生の勧誘ができていなかったため部員は少し減っているが、今は活動</p>

	できている。
今は価値観や物の考え方が変わってきていて、一人ひとりがWell-Beingでどう素晴らしい人生を送るかということになってきている。保健福祉、情報工学、デザインの3つの学部があることはとても強みになる。ぜひ今一度、強みをPRして、小粒でもきらりと光る大学になっていけばいいのではないかと思う。	私も着任して同じことを感じた。保健福祉、情報工学、デザインは絶妙な組み合わせだと思う。